

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (名張高等学校・全日制)

1 目指す姿

| | | |
|-------------------------|--|---|
| (1) 目指す学校像 | | 校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を活かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校 |
| 育みたい 児童生徒像 | | <p>総合学科の系統的な学びをとおして「自律」、「協調」、「創造」を体現できる力を身につけることを基本方針とし、「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、「学習成果発表会」等の探究活動や表現・発表の機会を主軸に置いた学習活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自律」…大きく変化する社会の中で、自分の力を信じ、学び続ける姿勢 ・「協調」…社会のニーズを受け、仲間とともに目的に向かって協働する中で、それぞれの能力を発揮し、作り上げていく達成感を共有できる力 ・「創造」…自分たちの感性を形にし、表現・発表することの喜びを実感できる力 |
| (2) ありたい 教職員像 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒とともに <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：生徒との信頼関係が構築できる。 ・授業：ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・相談：学習の躓きや日頃の悩みに耳を傾け、粘り強い支援と指導ができる。 ○ 保護者・地域社会とともに <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：保護者との信頼関係が構築できる。 ・連絡：日々の様子や変化を的確に共有できる。 ・情報：希望する進路実現ができるよう迅速な情報提供ができる。 ○ ワークライフバランスを意識した働き方ができる職場環境 <p>会議の精選や業務の効率化などにより「働きやすい職場」を作ると同時に、自己の研修の還流等を図ることで「働きがいのある職場」を作る。</p> |

2 現状認識

| | | |
|-----------------------------|---|--|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | <p>〈生徒〉 生徒アンケートの結果、生徒の約30%が就職を希望し、約40%が専門学校（看護系を含む）約30%が四大・短大への進学を希望している。授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。</p> <p>〈保護者〉 保護者アンケートから学校目標や教育目標への理解度が高い。多様なニーズに対応し、進路実現を可能にしてくれる学校になってほしいとの期待度が高い。また、近年では、資格取得への取り組みに加え、ICT教育、消費者教育、主権者教育への期待度が高い。</p> <p>〈地域〉 地域を支え、地域をリードする資質・能力を有する人材輩出への期待度が高い。また、一層活発な情報発信を求める声がある。</p> | |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| | <p>〈家庭〉 生徒全員が安心・安全に学べる環境と校風</p> <p>〈地域〉 信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化、地域づくりのパートナーとしての役割</p> <p>〈就職先〉 卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出</p> <p>〈進学先〉 学び続ける力と志を備えた人材の輩出</p> | <p>〈家庭〉 基本的な生活習慣の確立、本校教育方針へのさらなる理解と協力</p> <p>〈地域〉 学校と地域が協働した取組みの推進 地域教育力の発揮</p> <p>〈就職先〉 インターンシップ、進路講話への協力 継続した採用</p> <p>〈進学先〉 高大連携授業、進路講話への協力</p> |

(3) 前年度の学校
関係者評価等

○ 確かな学力の向上

多様な生徒の興味・関心・進路に対応した細やかなキャリア教育が展開されるとともに、総合学科の強みを活かしたカリキュラム・マネジメントがなされている。生徒に行った対象のアンケートでは、授業への「満足度」に対しては、学年平均で前期 89.2%・後期 94.0%が「○」と答えており、授業へ積極性に対しても、90%を超える生徒が「○」と回答している。名張高校の授業・カリキュラムに対して生徒は高い満足度を示していることが分かる。一方で「予習」に対して「○」と回答した生徒が、前期 54.6%・後期 65.1%であり、「復習」に対して「○」と回答した生徒は、前期 62.7%・後期 73.4%となっている。これらを除いたおよそ 30%~40%程度の生徒は、家庭学習に対しての自己評価が低いことが分かる。学校を離れて自立的に学ぶことに課題を持つ生徒が、一定数いることがわかる。家庭学習への意識づけ・習慣づけ、適切な支援が、令和5年度の改善課題として挙げられる。ICTの活用度を高めることが令和4年度の課題であったが、アンケートによれば、前期 95.1%・後期 97.2%の生徒がICT利活用に対し「○」を回答している。良好な結果が出ている。令和4年度の取組の結果、生徒はICTに対して、ほとんど苦手意識や困難性を持たなくなったことが分かる。本年度得たこの「強み」を、今後活かしていただきたい。令和5年度は、名張高校で提供される優れた生徒の学びを、より確かなものにするために、ICTのさらなる活用も進め、さらに主体的に深く学べる取組を充実させたい。特にカリキュラム上の各系列と、実際の生徒の進路の業種・職種との関係性をデータ的に明確化できれば、名張高校のカリキュラム経営とキャリア教育が生徒の「夢の実現」を後押ししている実態が明らかになり、名張高校で学ぶ喜びと意欲が喚起されるだろう。万一、系列の学修内容と進路の業種・職種が直結したものとして示せなくても、各系列の特色的な学修により、生徒が非認知能力を高められる証が示されると考えられる。

○ 豊かな心の育成

アンケートによれば、学校の「相談できる雰囲気」に「○」と回答した生徒が、前期 83.9%・後期 88.7%、学校の「安心感」に「○」とした生徒が前期 95.3%・後期 97.0%である。いずれも高い数値となっており、名張高校は生徒にとって安心して学べ、困難に直面してもそれを乗り越える環境が確保された学校であることが分かる。生徒に親身に寄り添った生徒支援がなされている証である。一方で、「目的意識」に「○」と回答した生徒は前期 87.1%・後期 90.6%となっている。昨年度の84%から大きく改善された。生徒の信頼度が極めて高い学校であり、その強みを活かして、学ぶことの大切さと楽しさを前面に打ち出した教科指導や、生徒個々の人生設計を見据えたキャリア教育等のさらなる充実をはかり、生徒に学びへの目的意識を持たせることが望まれる。

○ 勤務時間の縮減

教職員の過重労働が指摘される。定時退校、部活動の計画的な休養日の設定等の取組を行った。部活動を社会体育に移行していく等の負担軽減策については、国の方針等も見定め、積極的に対応していくことが望まれる。

○ 情報提供による信頼の構築

名張高校が発行する「NEWS LETTER」により、名張高校の優れた教育活動が、カラフルで見やすく、地域・社会にアピールされている。こうした広報活動の充実ぶりは、他校に類を見ない。

| | | |
|-----------|-------|---|
| | | <p>その内容はすべてが生徒主体のものであり、生徒の学校内外での活躍が豊かに紹介されている。また、地域連携の取組を取り上げたものも多い。名張高校生が参画するまちづくり、SDGS や先進的な主権者教育に関する情報発信がなされている。引き続き、家庭や地域、関係機関と連携し、充実した情報発信を行っていただきたい。一方で、生徒が持ち帰る「通信」等が、確実に保護者に届くことに課題があったが、「きずなネット」による発信と紙面でのたよりの使い分けることで改善が図られた。こうした工夫を令和5年度も継続していただきたい。</p> <p>○ 教職員の資質向上 コンプライアンス研修を3回実施し、教職員の資質向上に努めた。</p> |
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・Society5.0の世界で、周りの人と協働して、自分らしく生き生きと活動できる力を育成できるようカリキュラム・マネジメントを推進する必要がある。 ・アクティブラーニングの視点からの主体的・対話的で深い学びについて、具体的な目標を定め確実な取組を進める必要がある。 ・ICTの利活用については、研修等を通じて、教員一人ひとりのスキルを一層向上させていく必要がある。BYODの本格導入を受け、学習端末としての利活用はいうまでもなく、学習効果の向上を目指した取組が必要である。 |
| | 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革について、更に具体的な目標を定め、確実な取組を進める必要がある。 ・学校広報誌の発行を定期的実施し、更に細やかな情報発信を行うとともに、地域からの一層の信頼を高めていく必要がある。 |

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|--|
| 教育活動 | <p>生徒の自主的・自発的な学びの継続ができるよう、教職員は人権教育を柱とした安心して学べる学習環境を整える。その上で、生徒の規範意識をさらに高め、自己肯定感・自己有用感の醸成を目指し、粘り強い指導と支援を行う。また、豊かな心を育成するため、地域社会の一員としての自覚を促し、地域の活性化や社会貢献に向けての意欲を育む教育課程を実施し、向上心を持って自身の夢や目標の実現に向け、努力することができる資質を育てる。さらに、BYODを活用した主体的かつ対話的な学びや授業改善を進め、「わかる授業」と「将来につながる授業」を行う。生徒の進路実現に向けては、地域連携を土台としたキャリア教育の一層の充実化を目指す。</p> |
| 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 働きやすさ 無駄な仕事はやめる。①名張高校にとって良いことで現在実行していることは「継続する」。②名張高校にとって良いことなのにできていないことは「すぐ始める」。③すぐにやめた方がいいことは「すぐやめる」。業務の効率化と円滑な引き継ぎによって「働きやすい」名張高校を目指す。 ○ 働きがい 会議を精選し、会議時間を縮減する。①事前の連絡調整を徹底することで会議時間を短縮する。②各種委員会での議論を深め、委員会から改善案を提案し、改善策を実行に移す。③空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。各分掌・各学年がそれぞれにおいて責任を果たすことで「働きがい」のある名張高校を目指す。 |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------|---|--|----|
| 確かな学力の 向上 | (1)教育課程の改善 【活動指標】 総合学科としてのアイデンティティを再確認し、カリキュラム・マネジメントを推進させる。また、新観点に沿った学習評価の在り方を確立させる。 【成果指標】 全ての教科において、新観点を見据えた授業や考査を行う。また、評価の基準や内容を議題にした教科会や教育課程委員会を行う。 | (1)4系列9専攻の完成年度を迎えるにあたり、各系列の学びの特色を活かしたカリキュラム・マネジメントが展開できた。また、新観点を踏まえた学習評価が確立できた | |
| 豊かな心の 育成 | (2)授業改善 【活動指標】 生徒による授業評価を2回(7月、12月)実施する。 【成果指標】 「ICTを活用した授業が行われている」と回答した生徒の割合 90% | (2)成果指標を達成することができたが、今後、一層の授業力向上が求められる。 【達成 97.8%】 | ◎ |
| | (3)基本的な生活習慣の定着と確立 【活動指標】 学年通信等での提示、SHR・LHRでの指導 学年集会での指導等 【成果指標】 生徒満足度調査において、「基本的な学校生活習慣の定着に向けて、適切な指導が行われていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合 95% | (3)「基本的な学校生活習慣の定着指導」 【達成 95.3%】 ※昨年度 92.0% | |
| | (4)安全・安心教育 【活動指標】 生徒支援部(生徒指導係・保健係)、人権教育、学年による講演・指導等 【成果指標】 生徒満足度調査において、「健康と安全について、適切な指導が行われていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合 95% 「命や人権を大切にする指導が適切に行われていますか」の問いに、行われていると回答した生徒の割合 95% | (4)「健康・安全指導」 【未達成 94.2%】 ※昨年度 91.6% 「命や人権を大切に にする指導」 【達成 96.3%】 ※昨年度 95.7% | ◎ |
| | (5)意欲の育成 【活動指標】 進路実現に向けた進路指導部・学年による指導等 【成果指標】 生徒満足度調査において、「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行っていますか」の問いに、行っていると回答した生徒の割合 95% | (5)「進路実現に向けた指導」 【達成 97.1%】 ※昨年度 95.6% | |

改善課題

- ・ chromebook を活用した授業展開が定着しつつあるが、生徒の自学自習への活用頻度を向上させる必要がある。
- ・ 授業力向上に向けては、授業見学を通じた意見交換を積極的に行う等、一層の研鑽、修養が必要である。
- ・ 生徒一人ひとりの生きる力を育むため、健康と安全に関する教育活動の一層の充実化を図る必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|--------------|--|---|----|
| 総勤務時間の縮減 | <p>(1)働きやすい職場環境の構築</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後開催の会議が60分以内に終了した割合 95%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外労働30時間以下 ・1人当たりの年次休暇取得日数20日以上 | <p>(1)「定時退校」</p> <p>【未達成 78.4%】</p> <p>※昨年度 76.4%</p> <p>「部活動休養日」</p> <p>【未達成 98.2%】</p> <p>※昨年度 97.3%</p> <p>「60分以内の会議」</p> <p>【未達成 93.0%】</p> <p>※昨年度 92.3%</p> <p>「年360時間超え」</p> <p>【未達成 18人】</p> <p>※昨年度 4人</p> <p>「月45時間超え」</p> <p>【未達成 58人】</p> <p>※昨年度 45人</p> <p>「平均時間外労働」</p> <p>【達成 24.1時間】</p> <p>※昨年度 20.7時間</p> <p>「年休取得日数」</p> <p>【未達成 14.5日】</p> <p>※昨年度 13.8日</p> | ◎ |
| 情報提供による信頼の構築 | <p>(2)ホームページ・学校広報誌等による情報提供</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 月1回以上 ・中学3年生とその保護者及び地域を対象とした学校広報誌の発行 年5回以上 ・報道機関への資料提供 年7回以上 | <p>(2)「ホームページ更新」</p> <p>【随時実施】</p> <p>「広報誌の発行」</p> <p>【達成 5回】</p> <p>「報道関係資料提供」</p> <p>【随時提供】</p> | |
| 教職員の資質向上 | <p>(3)コンプライアンス研修</p> <p>【活動指標】 校内研修 年3回以上</p> <p>(4)教員対象 人権研修</p> <p>【活動指標】 校内研修 年3回以上</p> | <p>(3)「コンプライアンス研修」</p> <p>【達成 3回】</p> <p>「人権研修」</p> <p>【達成 3回】</p> | ◎ |

改善課題

- ・時間外労働時間の大幅な短縮、改善には至らなかった。次年度以降も引き続き、働き方改革を推進させたい。
- ・情報誌（NEWS LETTER）については、定期的に発行し、中学校や関係機関、私塾等へ配布することができた。広報活動の一層の充実化を目指すため、系列・専攻の学びの様子や学校紹介の動画作成にも取り組むことができた。
- ・教員研修の充実化を図り、教員の資質向上に向け、一層積極的に取り組む必要がある。

5 学校関係者評価

○ 確かな学力の向上

多様な生徒の興味・関心・進路に対応した細やかなキャリア教育が展開されるとともに、総合学科の強みを活かしたカリキュラム・マネジメントがなされている。生徒に行った対象のアンケートでは、授業への「満足度」に対しては、学年平均で前期 92.1%・後期 97.3%が「○」と答えており、授業へ積極性に対しても、前期 96.4%・後期 95.9%の生徒が「○」と回答している。名張高校の授業・カリキュラムに対して生徒は高い満足度を示し、学びに向う高い力を引き出している。こうした数値は、前年度比でいずれも向上しており、1年間の学修・教育活動の成果が表れた形になっている。

一方で「予習」に対して「○」と回答した生徒が、前期 67.7%・後期 75.2%であり、「復習」に対して「○」と回答した生徒は、前期 65.1%・後期 77.2%となっている。前年度に比べ数値は向上しているものの、家庭学習に対する自己評価が低い生徒が一定数見られ、家庭学習への意識づけ・習慣づけ・適切な支援が、令和6年度の改善課題として挙げられる。

ICTの活用度を高めることが令和5年度の課題であったが、アンケートによれば、前期 91.1%・後期 97.3%の生徒がICT利活用に対し「○」を回答している。良好な結果が出ている。本年度得たこの「強み」を、今後活かしていただきたい。

令和5年度は、新型コロナによる制限がほぼ撤廃されたこともあり、「輝け！じぶん未来探究ラボ」と銘打った「学習成果発表会」を開催した。これは、総合学科における生徒の学びを、生徒自らが振り返り、課題を明らかにし、より確かなものにするための素晴らしい取組であった。令和6年度は、この取り組みを継続した上で、学びの省察にとどまらず、生徒のさらなる「主体的で対話的な深い学び」につなげていただきたい。

カリキュラム上の各系列と、実際の生徒の進路の業種・職種との関係性をデータの明瞭化できれば、名張高校のカリキュラム経営とキャリア教育が生徒の「夢の実現」を後押ししている実態が明らかになり、名張高校で学ぶ喜びと意欲が喚起されるだろう。万一、系列の学修内容と進路の業種・職種が直結したものとして示せなくても、各系列の特色的な学修により、生徒が非認知能力を高められる証が示されると考えられる。これについては、令和6年度の取組課題と位置付けていただきたい。

○ 豊かな心の育成

アンケートによれば、学校の「相談できる雰囲気」に「○」と回答した生徒が、前期 92.2%・後期 95.3%、学校の「安心感」に「○」とした生徒が前期 96.4%・後期 98.7%である。いずれも高い数値となっており、名張高校は生徒にとって安心して学べ、困難に直面してもそれを乗り越える環境が確保された学校であることが分かる。生徒に親身に寄り添った生徒支援がなされている証である。

一方で、「目的意識」に「○」と回答した生徒は前期 88.0%・後期 93.9%となっている。生徒の信頼度が極めて高い学校であり、その強みを活かして、学ぶことの大切さと楽しさを前面に打ち出した教科指導や、生徒個々の人生設計を見据えたキャリア教育等のさらなる充実をはかり、生徒に学びへの目的意識を持たせることが望まれる。

明らかになった
改善課題と次へ
の取組方向

| | |
|--|---|
| | <p>○ 勤務時間の縮減</p> <p>教職員の過重労働が指摘される。定時退校、部活動の計画的な休養日の設定等の取組を行った。部活動を社会体育に移行していく等の負担軽減策については、国の方針等も見定め、積極的に対応していくことが望まれる。</p> <p>○ 情報提供による信頼の構築</p> <p>名張高校が発行する「NEWS LETTER」により、名張高校の優れた教育活動が、カラフルで見やすく、地域・社会にアピールされている。こうした広報活動の充実ぶりは、他校に類を見ない。その内容はすべてが生徒主体のものであり、生徒の学校内外での活躍が豊かに紹介されている。また、地域連携の取組を取り上げたものも多い。名張高校生が参画するまちづくり、SDGS や先進的な主権者教育に関する情報発信がなされている。引き続き、家庭や地域、関係機関と連携し、充実した情報発信を行っていただきたい。</p> <p>○ 教職員の資質向上</p> <p>コンプライアンス研修を3回、人権研修を3回実施し、教職員の資質向上に努めた。令和6年度も継続していただきたい。</p> |
|--|---|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|--------------|---|
| 教育活動についての改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 一人1台端末の利活用状況については、引き続き、情報委員会等において定期的に情報共有を行いたい。また、生徒の授業満足度の一層の向上を目指すため、ICT利活用に係る教員研修を随時開催し、教員の授業力向上に繋げたい。 総合学科の学びの特色を生かしたカリキュラムマネジメントを推進させ、一層活発な地域連携を実現させたい。 |
| 学校運営についての改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進にあたっては、引き続き、具体的な指標を定め、取り組んでいくとともにワーク・ライフ・バランスに資する職員研修等を実施し、職員のメンタルヘルスの維持に繋げたい。 広報活動を一層充実させ、総合学科としての取り組みを地域連携、地域協働の中から展開していきたい。また、主権者教育や消費者教育等における外部教育力の活用についても、引き続き、積極的に取り組んでいきたい。 |